

インバウンドコラム

2020 年中国インターネットレポート

中国とアメリカ インターネット主要プレイヤー比較

香港の英字紙サウスチャイナ・モーニングポスト(SCMP)リサーチが、2020 年の中国インターネットレポートをまとめています。第 1 章は、中国のインターネット現状の概要。第 2 章が、2020 年のトップトレンドで、新型コロナウイルスが、中国のテック業界に及ぼした影響やモノマネではなく中国独自の技術やサービスの増加、5G 時代の始まり、一時の流行と思われたライブストリーミング販売が第三興隆期に入ったこと、米中貿易摩擦による中国企業の内向き化を紹介し、第 3 章で小売や SNS、AI など各セクターの注目スタートアップ企業をリストアップしています。

各章、興味深いですが、第 1 章で、中国と米国の対比を様々な指標で行っていて、中国市場の大きさや特異性が視覚化されていて秀逸です。米国のインターネット人口は 2 億 98 百万で人口の 90%ですが、中国のインターネット人口は、9 億 4 百万と米国の 3 倍。そして、中国の人口は 14 億人なのでインターネット使用率はまだ 63%で今後も成長の余地が大きいことが、可視化されています。また、米中の主要なプレイヤーを対比した図では、検索は米国は Google、中国は百度とほとんど同じサービスで対比できるものもありますが、ショッピングは、米国の Amazon と eBay に対して、中国の T-Mall や JD.com、淘宝网までは対比できるかもしれませんが、共同購入が人気の拼多多(Pindoudou)や、SNS であり、ショッピングプラットフォームでもある小红书(Little Red Book)は、中国独自のプラットフォームと言えるのではないのでしょうか。音楽配信については中国に多くのサービスがあることを知りませんでした。オンライン会議ツールも、Zoom の創業者が中国系アメリカ人であることから、中国のサービスと誤解されて困っている、とどこかのインタビューで話していましたが、中国では、Zoom ではなく Alibaba の釘釘(DingTalk)や Tencent Meeting が主なようです。教育は、第 2 章の新型コロナウイルスの影響でも大きく取り上げていますが、パンデミックに伴う都市封鎖で、小学校から大学まで、中国国内の授業が一斉にオンラインで行われるようになり、2020 年で急激にサービスも増え技術も進歩した分野です。オンラインヘルスケアも同様です。(参照※1、図 1)



※1 中国インターネットレポート 2020 | SCMP

<https://research.scmp.com/products/china-internet-report-2020>